

九州生乳販連会報



TOPICS

第22回通常総会を開催	1
会長就任挨拶／役員体制	2
令和2年度事業報告	3
令和2年度生乳品質共励会の結果について	10
令和2年度生乳増産奨励事業実施報告	12
酪農情勢報告	14
加工原料乳生産者経営安定対策事業に係るお知らせ	15
令和3年度会員別生乳受託販売数量	16
令和3年度月別受託生乳検査成績／人事異動	16
令和3年度販売状況について	17
「生乳流通体制の合理化の総合的な推進について」の一部改正について	18
酪農教育ファーム認証牧場・ファシリテーター新規募集中!	18
酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業 お知らせとご報告について	19
牛乳・バター利用拡大推進運動について	20

第22回通常総会を開催

去る7月28日、福岡市内のホテルにて第22回通常総会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症対応のため、昨年に続き会員代表者及び役員候補者のみでの開催となりました。

令和3年度の事業計画につきましては、去る3月30日開催の臨時総会において承認を得ていますので、本総会においては下記の3議案が上程され、全て原案どおり承認されました。

第1号議案

令和2年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表、附属明細書及び剰余金処分案の承認について

第2号議案

役員の選任について

第3号議案

役員退職慰労金の支出について(案)

本総会の終結時をもって、隈部洋代表理事会長、江藤秀樹監事及び福添誠監事は退任されました。

なお、総会終了後の理事会及び監事会において、代表理事会長に中村隆馬理事、代表理事副会長に清末健一理事、代表理事常務に神島喜美男理事が選任されました。代表監事には小野幾郎監事が選任されました。

(会長挨拶・役員体制については次葉に掲載)



隈部会長



平島議長



大川理事



西監事



立山監事



会長就任挨拶

九州生乳販売農業協同組合連合会
代表理事会長 中村 隆馬

この度、令和3年7月28日に開催されました第22回通常総会後の第6回理事会におきまして代表理事会長を仰せつかった中村隆馬です。

隈部前会長の会長就任と同時に副会長に就任し、前会長の補佐を務めさせていただきました。今回、隈部前会長の退任にともない会長を仰せつかりましたが、重責であることを再認識しまして、改めて身の引き締まる思いであります。

これまで、平成17年度からながさき県酪農業協同組合、長崎県酪農業協同組合連合会の組織運営に携わらせて頂きました。これらの経験を基に、九州生乳販連が酪農家や会員等のために何ができるのか第一に考えながら、より一層必要とされる組織となるよう努力したいと思っております。

九州の酪農を取り巻く環境は、毎年起こる自然災害、新型コロナウイルスの蔓延による生乳需給への悪影響、生乳流通制度の改革など、想像を超えて目まぐるしく変化しております。このような時こそ相互扶助、団結による強い組織が酪農家に必要であると考えます。

改正畜安法が施行され3年が経過しました。一定の条件はありますが酪農家は生産した生乳の出荷先が自由に選べるようになりました。酪農家の間に不公平感があつては健全な組織運営は成り立たないので、今後の運営が組織の存在意義を大きく左右することになります。公平・健全な運営がされている組織に生乳を出荷することにより、酪農経営の将来に希望が持てる組織にしていかなければならないと思っております。

会員をはじめ、九州管内の酪農家の皆様のご理解、ご協力を改めてお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

役員体制

1. 役員名簿(令和3年7月28日現在)

役職	氏名	出身会員等	備考
代表理事会長	中村 隆馬	長崎県酪農業協同組合連合会	昇任
代表理事副会長	清末 健一	大分県酪農業協同組合	昇任
代表理事常務	稗島 喜美男	学識経験者	
理事	草場 哲治	ふくおか県酪農業協同組合	
理事	大島 信之	佐賀県農業協同組合	
理事	大川 清治	熊本県酪農業協同組合連合会	新任
理事	平島 善範	宮崎県経済農業協同組合連合会	
理事	轟木 孝一	鹿児島県酪農業協同組合	
代表監事	小野 幾郎	大分県酪農業協同組合	
監事	西 史明	佐賀県農業協同組合	新任
監事	立山 行広	宮崎県経済農業協同組合連合会	新任

2. 退任役員

代表理事会長	隈部 洋	(熊本県酪農業協同組合連合会)
監事	江藤 秀樹	(ふくおか県酪農業協同組合)
監事	福添 誠	(鹿児島県酪農業協同組合)

令和2年度 事業報告

一般概況(抜粋)

国内農業については、TPP11、日欧EPA、日米貿易協定の発効から年月が経ち、関税率や数量の緩和から農業への影響が徐々に大きくなっています。またコロナ禍の影響により販売先の喪失、イベント等が開催されないことによる売れ行きの落ち込みも見られます。一方では、気候変動が激しく猛烈な台風の襲来や未曾有の豪雨など甚大な被害をもたらす自然災害が発生し、安定的な農業経営を営むことが難しくなっています。

酪農においては「畜産経営の安定に関する法律」が一部改正施行され3年目を迎えました。九州においても生産した生乳の一部分を系統外へ販売することで生産者間に不公平感を与えるような事例が見られるようになりました。今まで組織が担ってきた一元集荷多元販売、生乳の需給調整機能が弱まることで生乳販売が不利になり、乳価が下がらないよう機能を堅持することが重要になります。一方、生乳の需給においてはコロナ禍で業務用牛乳・乳製品の需要が落ち込んだことにより、脱脂粉乳・バター在庫が積み増しになり高水準となっています。乳製品の需要拡大対策による在庫水準の引き下げが必要になっています。

2年度の乳価については、学校給食用牛乳向けの取引価格が1円値上げとなり、その他の用途は据え置きとなりました。用途別販売はコロナ禍の影響を大きく受け、年度当初は学校給食が休止となりました。年間を通じては巣籠り需要により飲用向けが比較的堅調に推移したことにより、販売乳価は前年度と比較して0.476円/kg上回った単価となりました。

生乳生産量については599,378t(計画比101.0%、前年比100.6%)と計画・前年ともに上回りました。会員や関係先を含めた生乳増産への取り組みにより経産牛が増加したため生産基盤の強化には一定の効果が表れました。しかしながら離農廃業のペースは変わらず62戸が離農廃業となりました。

今後も引き続き生乳販売においては飲用化の推進と用途別販売数量の管理、販売経費においては経費削減による乳価アップに努め、負託に応えることで酪農家に必要とされる組織となるよう努力してまいります。また相互扶助の精神により組織の強化に努めてまいります。

1. 生乳受託販売数量

平成30年度を初年度とする中期生乳需給安定化対策の最終年度として、令和2年度九州生乳販連生乳需給安定化対策実施要領に基づき、各会員を通じて生産者ごとの計画数量を取りまとめた生乳委託計画の数量602,356,068kg(前年比101.1%)をそのまま生乳出荷目標数量としました。

このような中、生乳受託販売数量は、これまで各会員が取り組んできた後継牛確保の効果があらわれ、分娩頭数・経産牛頭数が回復してきたことや、7～9月の厳しい暑熱期間が昨年より短く、暑熱ダメージが少なかったこともあり、4月、8月以外の月では前年を上回る実績となりました。これらの結果、上期の実績数量は297,708,289kg(計画比100.3%、前年比100.3%)、下期の実績数量は301,669,658kg(計画比101.7%、前年比100.9%)となり、年度計では599,377,947kg(計画比101.0%、前年比100.6%)と計画・前年の数量をともに上回る実績となりました。(表1)

表1 月別生乳受託販売数量実績 (単位:計画t、実績kg、%)

月	事業計画	実績	計画比	前年比
4	53,520	52,865,830	98.8	98.8
5	54,000	54,236,475	100.4	100.4
6	49,850	50,078,476	100.5	100.4
7	48,380	49,071,166	101.4	101.4
8	46,000	45,660,705	99.3	99.3
9	45,040	45,795,637	101.7	101.7
上期計	296,790	297,708,289	100.3	100.3
10	47,460	48,334,738	101.8	101.8
11	46,800	47,494,409	101.5	101.5
12	49,650	50,300,123	101.3	101.3
1	51,100	51,502,052	100.8	100.5
2	47,500	48,565,018	102.2	98.1 (101.6)
3	54,200	55,473,318	102.3	101.9
下期計	296,710	301,669,658	101.7	100.9 (101.4)
年度計	593,500	599,377,947	101.0	100.6 (100.9)

※前年比括弧内は、閏年補正後の参考値。

2. 生乳販売

生乳販売は、新型コロナウイルス感染症の影響を強く受ける結果となりました。飲用牛乳等向けは、年間を通じて堅調な巣籠り需要が牽引したことや、昨年、小中高の一斉休校の影響を受けて減少していた反動で学給向けが増加したことにより、424,003t(計画比101.8%、前年比101.7%)と増加しました。はっ酵乳等向けについては、インパウンドの喪失等による需要の減少が影響し、86,380t(計画比97.6%、前年比97.8%)と減少しました。脱脂粉乳・バター等向けについては、外出自粛や休業要請による業務用牛乳・乳製品の需要が大幅に減少したことで、60,436t(計画比103.7%、前年比100.2%)と増加しました。クリーム等向けについては、各社業務用クリームの不振が大きく響き、27,477t(計画比94.0%、前年比94.0%)と大きく減少しました。チーズ向けについても、外出自粛や休業要請、インパウンドの喪失が影響し、1,082t(計画比90.1%、前年比93.8%)と減少しました。(表2-1)。脱脂粉乳・バター等向け、クリーム等向け、チーズ向けを合わせた加工原料乳数量から公共分を除いた認定数量は88,112t(交付対象数量86,715.2tの101.6%)となりました。

販売先を地域別に見ると、九州域内499,431t(前年比99.9%)、中国地区10,501t(前年比46.9%)、関西その他地区89,445t(前年比121.1%)の実績となりました(表2-2)。中国地区の取引先工場が令和2年3月をもって閉鎖したため、中国地区向けの数量が前年より大幅に減少しています。

表2-2 地域別販売実績 (単位:kg、%)

地域別	実 績	前年比	構成比
九 州	499,431,478	99.9	83.3
中 国	10,501,072	46.9	1.8
四 国	0	0.0	0.0
関西その他	89,445,397	121.1	14.9
計	599,377,947	100.6	100.0

表2-1 用途別販売実績

(単位:計画t、実績kg、%)

用 途	計 画	実 績	計画比	前年比	構成比
域内飲用	290,080	295,997,687.2	102.0	100.9	49.4
学 給	39,660	38,731,710.8	97.7	103.9	6.5
域外飲用	86,570	89,273,860.2	103.1	103.4	14.9
飲 用 牛 乳 等 向 け 計	416,310	424,003,258.2	101.8	101.7	70.7
は っ 酵 乳 等 向 け	88,510	86,379,556.8	97.6	97.8	14.4
脱脂粉乳・バター等向け	58,260	60,436,132.0	103.7	100.2	10.1
ク リ ー ム 等 向 け	29,220	27,477,376.0	94.0	94.0	4.6
チ ー ズ 向 け	1,200	1,081,624.0	90.1	93.8	0.2
計	593,500	599,377,947.0	101.0	100.6	100.0

3. 生乳販売価格・販売費用

生乳販売価格は、学乳向けの値上げ(+1円)が実施されその他の用途は据え置きとなりました。

こうした中、生乳販売は前述2のとおりとなり、この結果、生乳販売価格は前年+0.404円/kg、成分加算金を加えて+0.476円/kgとなりました。

販売費用については、域外向け出荷の増加により送乳経費が前年+0.107円/kg、送乳経費の総額から需要者負担額(乳業者からの運賃補填、前年+0.016円/kg)を差し引いた送乳経費の生産者負担額は前年+0.090円/kg、CS冷却費は保守修繕費等の増加により前年+0.048円/kgとなりました。また、集乳経費については平成31年度期中(令和2年1月分)からプール化され、平成31年度が1～3月の3カ月分の計上となっているのに対し、令和2年度は4～3月分の計上となっている影響により+1.704円/kgとなり、費用全体としては前年+1.844円/kgとなりました。

生乳販売代金(基本乳代+成分加算金)から販売費用を差し引いた支払単価は、前述の集乳経費の計上期間の違いが影響し、前年△1.368円/kgとなりました。(表3)

4. 乳代精算

生乳販売代金については、各月に販売して得たプール対象生乳代金に季節別乳価実施要領で定める各月の季節別乳価調整率(92～114%)を乗じた季節別調整後金額を、会員ごとの乳量であん分して精算しました。

成分加算金については、乳業者からの受取成分加算金を各会員の成分基準値上回り量に応じてあん分しました。

販売費用については、販売手数料(生乳受託販売代金(基本乳代+成分加算金)の0.3%)・生乳検査料(販売数量に0.12円/kgを乗じた金額)・送乳経費(実費)・CS冷却費(実費)・集乳経費(実費)をそれぞれ会員ごとの乳量であん分して乳代から控除しました。

月ごとの調整により発生した季節別調整額の残高と借越しの金利負担額は6～11月の乳量であん分し、3月分生乳代金と同時に精算しました。(表4)

表3 販売乳価及び費用の比較

※千円単位での四捨五入のため計が一致しない場合がある。

年 度		令和2年度	平成31年度	差
乳 量		599,378 t	595,930 t	3,448 t
プール対象 生乳代金	金額	65,827,627千円	65,208,582千円	619,046千円
	単価	109.827円	109.423円	0.404円
成 分 加算金	金額	1,092,128千円	1,042,598千円	49,530千円
	単価	1.822円	1.750円	0.072円
生乳代金計	金額	66,919,756千円	66,251,180千円	668,576千円
	単価	111.649円	111.173円	0.476円
販 売 費 用	金額	4,608,794千円	3,483,464千円	1,125,331千円
	単価	7.689円	5.845円	1.844円
支 払 乳 価	金額	62,310,961千円	62,767,716千円	△46,754千円
	単価	103.959円	105.327円	△1.368円

5. 加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金

農林水産省が令和元年12月12日に決定した令和2年度畜産物価格において、加工原料乳生産者補給金および集送乳調整金の総交付対象数量は前年度より5万トン多い345万トン、補給金単価は8.31円/kg(前年±0円/kg)、集送乳調整金単価は2.54円/kg(前年+0.05円/kg)、合計10.85円/kg(前年+0.05円/kg)となりました。

本会においては、畜産経営の安定に関する法律に基づき農林水産省へ提出した令和2年度の年間販売計画に記載する特定乳製品向け(脱脂粉乳・バター等向け、クリーム等向け、チーズ向けの合計)86,715.2トンが交付対象数量として承認されました。

本会の令和2年度加工原料乳認定数量は88,112,345kgとなり、交付対象数量を1,397,145kg超過しました。この数量は生産者補給交付金・集送乳調整金交付決定変更承認申請を行い、交付対象数量として承認を受けます。

これらを踏まえ、各生産者に対しては生産者補給交付金732,213,585円、集送乳調整金223,805,353円、総額956,018,938円を四半期ごとに(ただし、第2四半期分は第4四半期と同時に支払い。)会員を通じて支払いま

した。なお、受託乳量1kgあたりの単価は、生産者補給金が1.230円、集送乳調整金が0.376円となりました。

表5 加工原料乳生産者補給金および集送乳調整金について

項 目	数 量
交付対象数量	88,112,345kg
認定数量	88,112,345kg
補給金交付数量	88,112,345kg

項 目	単 価	金 額
生産者補給金	8.31円/kg	732,213,585円
集送乳調整金	2.54円/kg	223,805,353円
合計	10.85円/kg	956,018,938円

6. 生乳増産奨励事業

(1) 増産奨励金交付事業 事業総額5,270千円

平成31年度期首から令和2年度期末まで酪農経営を継続した生産者のうち、令和2年度の年間および需要期(6～11月)の生乳受託販売数量が、ともに前年を上回った生産者を対象とし、その増産割合の高い順に表彰を行う増産奨励金交付事業を実施しました。

表4 生乳代金の精算

※千円単位での四捨五入のため計が一致しない場合がある。

月	プール対象 生乳代金 (千円)	季節別 調整率 (%)	季節別 調整後金額 (千円)	成分加算金 (千円)	販売費用 (千円)	支払乳代 (千円)	季節別 調整額 (千円)	累計季節別 調整額 (千円)
4	5,586,620	94	5,251,423	97,790	403,631	4,945,582	335,197	335,197
5	5,940,930	94	5,584,474	88,718	439,044	5,234,148	356,456	691,653
6	5,642,782	100	5,642,782	77,372	397,032	5,323,121	0	691,653
7	5,502,274	110	6,052,502	74,332	366,871	5,759,962	△550,227	141,426
8	5,089,273	111	5,649,093	61,298	348,751	5,361,640	△559,820	△418,394
9	5,179,606	114	5,904,751	67,792	339,450	5,633,093	△725,145	△1,143,539
10	5,433,145	105	5,704,802	90,696	367,755	5,427,743	△271,657	△1,415,196
11	5,298,726	100	5,298,726	95,449	364,884	5,029,290	0	△1,415,196
12	5,375,585	93	4,999,294	112,497	383,434	4,728,356	376,291	△1,038,906
1	5,578,918	92	5,132,605	119,361	391,358	4,860,607	446,313	△592,592
2	5,326,193	92	4,900,098	101,795	386,171	4,615,722	426,095	△166,497
3	5,873,576	92	5,403,690	105,030	420,413	5,088,306	469,886	303,389
計	65,827,627		65,524,238	1,092,128	4,608,794	62,007,572	303,389	

対象期間中に生乳出荷を継続した生産者1,193戸のうち569戸で、年間および需要期の生乳受託販売数量がともに前年を上回りました。年間乳量に応じて部門分けし、各部門上位15名の計45名と、その45名を除く各会員の上位者1名の計21名、合わせて66名への褒賞の授与を決定しました。

(2)乳用牛繁殖改善事業 事業総額1,115千円

今年度からの新たな取り組みとして、近年の生乳生産量減少の一因となっている乳用牛の受胎率低下や分娩間隔の長期化に対し、早期の妊娠判定確認の選択肢となるPAGs(乳汁中妊娠関連糖蛋白質)検査への助成を行うことで、生産者の繁殖改善の一助となることを目指して乳用牛繁殖改善事業を実施しました。

本会検査所および会員施設にPAGs検査を依頼した場合に、1検体あたり200円(税抜)を助成し、補助対象検体数は5,576本(前年比108.4%)となりました。

7. 酪農理解醸成及び牛乳消費拡大対策事業

(1)会員実施分

事業総額 38,828千円

各会員が実施した酪農理解醸成活動、牛乳消費拡大運動への助成を行いました。また、酪農が生活者にとってより身近なものとなるよう、「ファン獲得運動」としてFacebookを活用し、各会員から報告された地域のイベントや生産現場の記事や写真を生活者へ向けて発信しました。

(2)本会実施分

事業総額 38,899千円

本会が実施した酪農理解醸成及び牛乳消費拡大対策事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により従来の取り組みが実施できなくなる等の影響を受け、感染症の影響を受けずに実施できるインターネット等を活用した方法により実施しました。

新聞を使った酪農理解醸成活動として、10月24日に「牛乳への応援が、聞こえてくるようでした。」、11月21日には「牛乳を愛してくれるみなさんへ。」をメインコピーに全国紙・地方紙の朝刊に広告を掲出し、新型コロナウイルスの影響により学校給食が休止となる等牛乳・乳製品の消費の落ち込む中、生活者が牛乳を応援し、飲んでくれたことに感謝を伝えるとともに、今後も牛乳を飲むことが酪農家への応援に繋がることを伝えました。

6月の「牛乳月間」には、インターネット・SNSを活用したプレゼントキャンペーン「牛乳ヒゲチャレンジ」と「うちトレスクール」を実施しました。毎年6月に実施しているハッピーミルクフェスタについては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み中止しました。

乳和食料理の普及を図る施策としては、鹿児島県食生活改善推進協議会の会員を対象に、乳和食メニューを自宅で作る「チャレンジ乳和食」を実施しました。

動画を活用した施策としては、牛乳を使った料理を紹介する動画を九州Love Milk ClubのホームページとYouTubeに掲出した他、農林水産省公式YouTubeチャンネル「BUZZMAFF」のチーム「タガヤセキウシュウ(九州農政局)」と酪農・牛乳クイズ対決を行う動画を作成しました。

この他、新型コロナウイルスの影響による牛乳・乳製品の消費の落ち込みに対し、6月に緊急牛乳乳製品消費拡大対策、1～3月に令和2年度牛乳等冬季需給対応事業として、酪農家自らが児童クラブ・医療機関・生活者へLL牛乳を提供する取り組みを実施しました。また、令和3年1～3月に牛乳・バター利用拡大推進運動を実施し、酪農家自らが牛乳・乳製品の消費拡大運動を率先して行うことで生活者に向けて広く消費拡大の必要性和協力を呼びかけました。

(3)牛乳定着化事業

事業総額 19,905千円(中央酪農会議助成金)

(一社)中央酪農会議『MILK JAPAN』活動を実施しました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて対面イベントは中止し、新たにインターネット・SNSを活用したプレゼントキャンペーン「#牛ニューイヤーチャレンジ」と「#うちトレチャレンジ」を実施しました。

また、MILK JAPANの認知率アップと「九州産」牛乳をPRし、牛乳購買の促進を図るため、1～2月にはイオン九州・系列店の各店舗で「ミルクde応援キャンペーン」を、2～3月にはイオン九州のネットスーパー上でポイントプレゼントキャンペーンを実施しました。

(4)酪農教育ファーム事業

事業総額 1,137千円

(中央酪農会議助成金1,137千円、自己負担0円)

生活者や教育関係者を対象とする酪農体験を通した酪農教育ファームは新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が発令された令和2年3月から活動を自粛しました。

11月に(一社)中央酪農会議主催で実施された「アニマルウェルフェアの考え方に対応した乳用牛の飼養管理指針」には、九州地域のファシリテーター2名が新型コロナウイルス感染防止のためWEBでの参加となりました。

また、6月から新規募集を開始し、認証牧場2戸とファシリテーター1名が新規認証を取得しました。それに伴い会員の協力の下、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で牧場の安全性や衛生面の現地審査を行いました。

年度末の認証牧場とファシリテーター数は表6-1、事業費の内訳は表6-2のとおりです。

表6-1 (単位 認証牧場:戸、ファシリテーター:人)

	認証牧場	ファシリテーター
福岡	5	11
佐賀	3	3
長崎	1	1
熊本	7	13
大分	5	13
宮崎	8	13
鹿児島	4	5
計	33	59

表6-2 (単位:千円)

事業	内 訳		実績
	委託費	自己負担	
新規認証牧場現地審査	17	0	17
事業推進費	1,120	0	1,120
合計	1,137	0	1,137

8. 生乳検査事業

(1) 生乳検査成績

各検査項目(脂肪分率・蛋白質率・乳糖分率・無脂乳固形分率・氷点・乳中尿素・体細胞数・細菌数)の受託に係る配分検査を生産者バルククーラー単位に月2回、年24回実施しました。

乳質検査結果について、2年度の年間加重平均では脂肪分率3.90%・無脂乳固形分率8.82%でした。直近の5年間で比較しますと最も高い乳成分になりました。

体細胞数について21.5万/mlと昨年度(22.1万/ml)より減少しています。過去5年間と同等の数値を維持しています。昨年は梅雨明け後の猛暑期間が短く搾乳牛にかかるストレスが例年より軽減され、高品質の生乳生産につながりました。

細菌数の平均値は3.1万/mlとなり、前年度(2.8万/ml)より若干上昇しましたが衛生的な乳質を維持しました。これを前年度とのペナルティバルクの発生率で比較すると、31年度0.7%・2年度0.5%となり0.2%減少と小幅ですが改善しています。また、ペナルティ乳量の発生率は31年度0.4%・2年度0.3%で前年度より0.1%減少しています。

表7-1

年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度
脂肪分率	3.87%	3.89%	3.88%	3.88%	3.90%
無脂乳固形分率	8.80%	8.80%	8.78%	8.78%	8.82%
全固形分率	12.67%	12.69%	12.66%	12.66%	12.72%
体細胞数	21.2万個	21.3万個	21.3万個	22.1万個	21.5万個
細菌数	2.7万個	2.9万個	2.9万個	2.8万個	3.1万個
氷点-0.510℃を超えるバルクの比率	0.76%	0.76%	0.60%	0.93%	0.71%

氷点の検査は、2年度もバルク乳での検査を実施し、改善が必要な生産者については会員へ指導と報告を要請しました。本会が定める氷点の基準外のバルククーラーの割合については0.71%となり31年度0.93%より減少しました。

過去5年間の乳質等の推移は表7-1のとおりです。

(2) 生乳検査本数

配分検査は酪農家戸数の減少により前年比95.9%。乳用牛群検定検査はロボット搾乳の導入による減少はありましたが、生乳生産基盤強化により飼養頭数が増加し、前年比100.2%となりました。依頼検査は前年比105.4%、生乳取引検査は前年比100.5%、生産者指導のための指導検査は前年比61.1%、PAGs検査は前年比105.2%となり、検査総本数実績は計画比101.1%、前年比99.7%となりました。

乳用牛群改良検定事業については本年度も九州7県すべてで実施しました。また、乳業者との成分取引に係る検査については福岡・佐賀・熊本・大分・鹿児島について実施し、乳代請求に利用されました。

依頼検査は生産者からの依頼に応じて、指導検査は会員等からの依頼に応じて実施しました。

検査内容と実績本数については表7-2、検査種別・機器別の検査本数は表7-3のとおりです。

表7-2 (単位:本)

内容	年間計画	R2年実績	H31年実績	計画比	前年比
配分細菌検査	30,000	29,980	31,255	99.9%	95.9%
配分成分検査	30,000	29,980	31,255	99.9%	95.9%
牛群検定検査	941,515	957,080	955,389	101.6%	100.2%
依頼検査	19,600	20,163	19,135	102.9%	105.4%
PAGs検査	4,830	4,617	4,390	95.6%	105.2%
取引検査	47,100	47,898	47,642	101.7%	100.5%
配分再検査	1,320	1,294	1,299	98.0%	99.6%
指導検査	11,000	6,547	10,709	59.5%	61.1%
総検査本数	1,085,365	1,097,559	1,101,074	101.1%	99.7%

表7-3 上段:本数 下段:前年比

検査種別	コンビフォス	バクトスキャン	PAGs検査
配分検査	29,980本 95.9%	29,980本 95.9%	—本 —%
牛群検定検査	957,080本 100.2%	—本 —%	—本 —%
依頼検査	18,170本 105.4%	1,993本 104.7%	4,617本 105.2%
取引検査	47,898本 100.5%	—本 —%	—本 —%
配分再検査	1,248本 96.1%	46本 —%	—本 —%
指導検査	5,225本 68.9%	1,322本 42.2%	—本 —%
合 計	1,059,601本 99.9%	33,341本 91.9%	4,617本 105.2%

(3) 生乳検査料金

検査料金は受託乳量に対し0.12円/kgを徴収しま

した。その他の検査料金は乳用牛群検定45円/本、依頼検査は成分・体細胞で100円/本、細菌検査300円/本、PAGs検査800円/本です。

ペーパーディスク検査用シャーレについては、100円/枚でふくおか県酪農協・長崎県酪連・大分県酪農協に継続して供給しました。

(4) 検査所組織と検査精度

生乳検査所の更なる機能の拡充と充実に努めました。本会は精度管理認証制度において「検査部門」(乳脂肪分率・無脂乳固形分率・体細胞数)及び、「検体採取部門」について認証を受け、年4回実施された外部精度管理に参加しました。結果は全ての項目において許容範囲内の精度を維持していました。3月末時点での全国の検査施設における認証取得状況は表7-4のとおりです。

機器の整備については、修理コストの削減と効率的な検査の実施のため、機器のメンテナンスを熟知した技術職員の養成に努めました。また、検査機器の精度の維持、管理のため自主点検及び整備を定期的に行いました。

表7-4 認証検査機関の分類

分類・地域	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄	計
指定団体系	1	2	1	1	1	1	2	1	1		11
大手商系		4	9		3	6		1	3	1	27
中小商系			1			1					2
農プラ	3		2				1				6
計	4	6	13	1	4	8	3	2	4	1	46

(5) 検査技術の普及

会員CS職員等の生乳に関する基礎知識の習得、検査技術の確認と向上を図るため、生乳検査技術研修会を令和2年度は10、11月に2回開催し、組合・CS等の職員の他、検査関連の職員、農プラ系乳業の品質管理担当職員など12名の参加がありました。なお、講師は本会生乳検査所職員が行い職員の資質向上の機会と知識の習得にも寄与しました。

また、集送乳乗務員に対する研修会を2会員に延べ4回実施しました。その他に会員が開催する乳質改善の講習会に職員を派遣し、正確な検体採取と乳質の劣化防止、生乳の風味に関する講習会を行いました。

(6) 生乳の安全・安心の確保

生乳の安全・安心の確保のための九州協議会は、行政や各種指導機関、乳業者と乳業者団体、生乳生産に関連する業者を会員としており、新型コロナの感染防止のため8月に書面で、また会員の安全・安心担当者会議をWEBで開催しました。

チェックリストの記帳率100%を達成するため「出荷伝票方式」になり8年が経過しましたが、多くの項目に

において記帳が出来ていない酪農家はいなくなり、巡回検証において6項目全て×の農家数はゼロを達成しました。

各会員が行った重点記帳項目等の巡回検証結果は表7-5のとおりです。

表7-5 重点記帳項目等の記帳状況

6項目全て○の農家	○又は×が混在する農家	6項目全て×の農家
1,171戸	40戸	0戸

Jミルクが実施するポジティブリストに係る検査対象物質12物質(動物用医薬品7物質、殺菌用消毒剤・殺虫剤5物質)の結果は、全てのサンプルで不検出でしたが、搾乳関連場所以外でDDACとパコマの使用実態があるため、生産者へ注意喚起を行いました。また搾乳器具の殺菌は次亜塩素酸ナトリウムに統一した指導を継続して行いました。

発がん性を持つカビ毒アフラトキシンM1の生乳中への残留規制も平成27年7月に始まり残留の防止について、その啓蒙・周知を図りました。また、Jミルクの依頼により生乳中のアフラトキシンM1検査を11月に2検体(全国17検体)実施し、全てのサンプルで「陰性」となりました。

タンクローリー生乳廃棄事故は74件・409トン(前年71件・392トン)発生し、前年より件数・廃棄乳量ともに増加しました。発生原因で多いのは抗生物質陽性で、混入事故件数は昨年と同等で31件・182トン(前年31件・177トン)、原因割合の41.9%を占めていました。細菌異常による廃棄事故は17件・113トン(前年17件・107トン)、原因割合で23.0%を占めています。また、黒色斑点(搾乳施設に起因する)及びバルク室内環境による異物混入が21件・91トン(前年20件・84トン)、原因割合で28.4%を占めました。多くの事故は人為的ミス・点検確認漏れ等であり未然に防止できるものでした。対策として生乳廃棄を減らすために、事故の際には詳細を報告してもらい原因を究明し、会員へ周知徹底を図りました。また、事故の未然防止のため生乳出荷伝票記入のポイントの下敷を生産者に配布しました。

(7) 生乳品質共励会の開催

令和2年度生乳品質共励会を令和2年4月1日～令和3年3月31日の対象期間で開催しました。その結果、審査対象農家は1,211戸(大学校、高等学校を含む)で、最高得点は1,180点・平均点は897点(前年比±0点)となりました。上位入賞者は、最優秀賞が第1部 土肥倉森氏1,180点(熊本県)・第2部 (有)田中牧場1,180点(大分県)・第3部 江上正生氏1,166点(福岡県)となり、その他 優秀賞30名・優良賞(1,000点以上)231名の生産者が受賞されました。

9. 補助事業

本年度は以下の補助事業を行いました。

- (1)生乳生産者需要確保事業 15,423,500円
- (2)国産チーズ生産奨励事業 917,544円
- (3)加工原料乳生産者経営安定対策事業 0円
- (4)生産者需給緩和緊急対策事業 237,236,236円

10. 酪農乳業産業基盤強化特別対策事業

一般社団法人Jミルクが実施する2020年度酪農乳業産業基盤強化特別対策事業のうち酪農生産基盤強化総合対策事業を実施し、助成額は本会実施分が54,400円、会員実施分が21,023,915円、合計21,078,315円となりました。

11. 総務部門

(1)内部留保の充実

自己資本の強化を図る目的から、平成31年度剰余金のほとんどを任意積立金として内部留保に充て、検査機器更新の資金として積立てを行いました。

(2)効率的な資金管理

年間資金計画に基づき効率的な資金管理に努めました。生乳代金の債権管理については、販売部と連携し遅延先との協議を図りながらその減額に努め、財務の健全化に取り組みました。

(3)新型コロナウイルス感染症への対応

移動を伴わないオンライン会議、オンライン研修会に向けた環境整備を進めるとともに、間仕切りや時差出勤・リモートワークによる職場内接触の低減、検温による健康管理、マスク着用の徹底と手洗い・消毒の励行など、職場内感染の防止に取り組みました。

(4)インボイス制度への対応

令和5年10月から実施されるインボイス制度への対応にかかる情報収集や関係先との協議を進めています。

(5)コンプライアンス計画の推進

コンプライアンス遵守の意識付けのため、セルフチェックを実施するとともにフィードバックのための面談を行いました。

(6)職員の教育研修

外部講師による研修を計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大によりスケジュールの都合がつかず未実施となりました。

(7)情報の提供

年4回「九州生乳販連会報」を発行し、会員、酪農家及び関係団体へ生乳生産状況や販売状況、酪農を取り巻く環境の動向、酪農理解醸成や消費拡大事業など情報の提供を行いました。

貸借対照表

第22年度(令和3年3月31日現在)

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	8,560,922	流動負債	8,065,529
1. 預金	703,820	1. 事業未払金	7,681,122
2. 事業未収金	7,914,266	2. リース債務	22,340
3. 雑資産	8,930	3. 雑負債	362,066
4. 貸倒引当金	△ 66,094	固定負債	60,316
固定資産	163,332	負債の部合計	8,125,844
1. 有形固定資産	64,547	出資金	70,000
2. 無形固定資産	0	利益準備金	140,000
3. 外部出資その他の資産	98,785	特別積立金	10,000
		目的積立金	341,000
		繰越利益剰余金	37,410
		純資産の部合計	598,410
資産の部合計	8,724,254	負債・純資産の部合計	8,724,254

損益計算書

第22年度(令和2年4月1日より令和3年3月31日まで)

(単位:千円)

科目	金額
1 事業総利益	214,481
(1) 販売事業収益	72,477,770
(2) 販売事業費用	72,361,328
販売事業総利益	116,442
(3) 消費拡大事業収入	28,808
(4) 消費拡大事業費用	27,988
消費拡大事業総利益	820
(5) 検査事業収益	123,725
(6) 検査事業費用	26,506
検査事業総利益	97,219
(7) 事業補助金	253,577
(8) 補助事業費	253,577
補助事業総利益	0
2 事業管理費	178,477
事業利益	36,004
3 事業外収益	8,574
4 事業外費用	5,462
経常利益	39,115
5 特別利益	0
6 特別損失	0
税引前当期純利益	39,115
法人税等合計	10,408
当期純利益	28,708
繰越利益剰余金期首残高	8,702
繰越利益剰余金期末残高	37,410

令和2年度生乳品質共励会の結果について

令和2年度生乳品質共励会の表彰式は、新型コロナの感染拡大防止のため中止いたしました。今回も生乳品質共励会開催要領に基づき、昨年4月から3月までの1年間を対象に、月2回実施した乳質検査の結果を配点基準により採点し24回の合計点数を1,200点満点で評価したものです。

それぞれの審査項目と基準値は、脂肪分率3.8%以上・無脂乳固形分率8.7%以上・細菌数3万以下・体細胞数10万以下・氷点-0.520℃以下という、厳しいものになっています。

昨年は梅雨の大雨により熊本県人吉市で甚大な被害が発生するなど自然災害に翻弄されましたが、猛暑の期間が短くお盆を過ぎたころには気温が下がり、牛体にかかるストレスは例年より軽減されました。

今年度は、対象となる1,211バルクの平均点は897点(前年比±0点)となりました。生産乳量階層別に3部門(第1部:250ℓ未満、第2部250ℓ以上500ℓ未満、第3部500ℓ以上)の3名に最優秀九州生乳販連会長賞が授与され、その栄誉を称えました。

第1部の土肥倉森氏(熊本県)には(一社)中央酪農会議会長賞と全国農業協同組合連合会会長賞、第2部の(有)田中牧場様(大分県)には九州農政局局長賞と(一社)Jミルク会長賞、第3部の江上正生氏(福岡県)には(一社)日本乳業協会会長賞と全国酪農業協同組合連合会会長賞がそれぞれ贈られました。

また、生産規模に関係なく上位30名には優秀賞が授与され、優秀賞受賞記念のステンレスプレートが、1,000点以上を獲得された231名の優良賞受賞者には「2021優良生乳生産管理牧場」のステッカーがそれぞれ贈られました。今回優秀賞の方々は、下記のとおりです。

令和2年度九州生乳販連生乳品質共励会 優秀賞一覧表

番号	県	氏名	得点	R2年度 生産乳量 (トン)	規模別 ランク	表 彰	番号	県	氏名	得点	R2年度 生産乳量 (トン)	規模別 ランク	表 彰
1部	熊本	土肥 倉森	1,180	181	1	最優秀賞1	15	福岡	松永 慎也	1,147	492	2	優秀賞15
2部	大分	(有)田中牧場	1,180	429	2	最優秀賞2	16	大分	竹村 富二男	1,147	418	2	優秀賞16
3部	福岡	江上 正生	1,166	584	3	最優秀賞3	17	熊本	深水 誠弥	1,144	206	1	優秀賞17
1	長崎	尾崎 昌幸	1,174	39	1	優秀賞1	18	熊本	内田 洋	1,142	432	2	優秀賞18
2	熊本	右田 祐樹	1,170	471	2	優秀賞2	19	宮崎	財部 猛	1,138	282	2	優秀賞19
3	熊本	(有)櫻井牧場	1,165	874	3	優秀賞3	20	熊本	黒石 哲博	1,137	1,112	3	優秀賞20
4	長崎	野崎 輝敦	1,165	643	3	優秀賞4	21	熊本	上田 健治	1,136	426	2	優秀賞21
5	宮崎	黒木 英教	1,165	240	1	優秀賞5	22	福岡	森下 団蔵	1,136	358	2	優秀賞22
6	熊本	荒木 和也	1,161	296	2	優秀賞6	23	熊本	坂本 篤幸	1,136	148	1	優秀賞23
7	長崎	山口 直敏	1,159	228	1	優秀賞7	24	熊本	工藤 伸一	1,123	329	2	優秀賞24
8	長崎	松谷 茂	1,157	276	2	優秀賞8	25	福岡	安丸 英宏	1,122	610	3	優秀賞25
9	熊本	(有)茶ノ木	1,156	921	3	優秀賞9	26	宮崎	去川 勇	1,120	117	1	優秀賞26
10	熊本	(有)隈部牧場	1,154	785	3	優秀賞10	27	熊本	(株)松島牧場	1,119	769	3	優秀賞27
11	熊本	村岡 泰司	1,154	91	1	優秀賞11	28	宮崎	赤木 大介	1,119	378	2	優秀賞28
12	福岡	野田 貞治	1,152	521	3	優秀賞12	29	熊本	竹野 和也	1,119	342	2	優秀賞29
13	熊本	平山 将	1,151	308	2	優秀賞13	30	宮崎	田中 武志	1,119	254	2	優秀賞30
14	宮崎	松浦 博俊	1,148	758	3	優秀賞14							

1部:250ℓ未満 2部:250～500ℓ 3部:500ℓ超

(敬称略)

第1部最優秀賞

土肥 倉森 様

今回、最優秀賞をいただき光栄なことを思います。

日頃から特別なことをしているという自覚はありませんが、家族である牛たちが毎日元気で牛乳をいっぱい出してくれることに感謝しながら、夫婦二人で日々の作業をしています。新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、不安に思うこともありますが、九州の酪農家の皆さんも頑張っておられるので、生産者の一人として牛乳の消費拡大に貢献できるよう、これからも安全で安心な良質な生乳生産に頑張っていきたいと思います。



土肥 倉森 様

第2部最優秀賞

有限会社 田中牧場 様

今回、最優秀賞をいただき大変光栄に思います。

日々、妻と2人で良質な生乳生産に努めていますが、各方面から支援して下さる酪農関係者の皆さんや、私たちの管理に素直に応えてくれる牛たちにも感謝です。

昨年来の新型コロナウイルスの影響により、私たち大人だけではなく、子供たちも不便な生活を強いられています。そんな子供たちや消費者の皆さんが笑顔になれるような美味しい牛乳を届けられるよう、今後も頑張っていきたいと思います。



有限会社 田中牧場 様

第3部最優秀賞

江上 正生 様

今回、はじめて第3部最優秀賞を頂き、大変光栄に思います。

牛たち、家族、酪農関係者の方々の支えがあって頂けた賞なので、感謝につきます。特に牛たちには感謝です。

これからも消費者の皆さんに、美味しく安全で高品質の牛乳を飲んで笑顔になれる様、生乳生産を頑張っていきたいと思います。



江上 正生 様

令和2年度生乳増産奨励事業 実施報告

本事業は、本会会員を通じて本会に生乳の販売を委託し、令和2年度期首から期末までの1年間生乳出荷を継続した生産者のうち、年間および需要期(6～11月)の生乳受託販売数量がともに前年を上回った方を対象とし、その増産割合の高い順に表彰を行うものです。令和2年度は1,193戸の方が年間を通じて出荷を行い、そのうち47.7%にあたる569戸が年間および需要期ともに前年を上回る結果となりました。以下に、部門ごとの褒賞対象者一覧、部門ごとの最上位者の方から頂戴したコメントを掲載し、事業の実施をご報告します。

褒賞対象者一覧

褒賞 部門	250㍓未満の部		250㍓以上500㍓未満の部		500㍓以上の部	
	氏 名		氏 名		氏 名	
1位	森 隆 則	大分	大 無 田 美 穂	熊本	日高牧場株式会社	宮崎
2位	菓 子 野 誠	宮崎	平 川 剛 士	宮崎	株式会社 阿蘇ファーム	熊本
3位	尾 崎 昌 幸	長崎	黒 木 明 雄	大分	本 田 真 人	熊本
4位	中 根 康 介	熊本	三 池 裕 昭	熊本	c o l l e c t	熊本
5位	時 任 昌 武	宮崎	松 本 良 太	長崎	川 野 勇 一	宮崎
6位	中 村 隆 馬	長崎	三 池 哲 雄	熊本	株式会社 高木牧場	熊本
7位	森 沢 達 也	佐賀	染 川 忠 文	宮崎	株式会社 クマヒロファーム	熊本
8位	上 田 正 志	宮崎	池 田 洋	熊本	倉 岡 繁	熊本
9位	豊 田 末 人	熊本	平 川 浩 人	宮崎	株式会社 風の牧場	佐賀
10位	岡 村 泰 輔	熊本	中 村 春 美	熊本	井 出 政 宏	熊本
11位	野 口 孝 昭	熊本	鮫 島 広 美	鹿児島	水 島 志 朗	熊本
12位	白 井 精 一	長崎	甲 斐 英 幸	大分	尾 方 学	熊本
13位	西 岡 洋	福岡	有限会社 有田牧畜	宮崎	工 藤 雅 彦	鹿児島
14位	土 肥 倉 森	熊本	松 岡 博 幸	熊本	株式会社 洞田貫牧場	熊本
15位	岩 永 耕 一	長崎	池 田 健 治	福岡	古 庄 和 廣	熊本
奨励賞	井 上 紀 一	長崎	内 匠 秋 夫	鹿児島	株式会社 ドリームランド牧場	鹿児島
	坂 田 毅 弘	熊本	別 城 国 弘	熊本	堀 太	熊本
	神 田 淳 一	鹿児島	大 久 保 英	長崎	株式会社 池島牧場	宮崎
	鷗 野 敏 郎	宮崎	株式会社 ゆふいん牧場	大分	豊 田 伸 司	大分
	石 井 幹 雄	福岡	水 谷 翔 太 郎	宮崎	永 田 弘	福岡
	井 上 昭 一 郎	佐賀	森 次 廣	福岡	堀 越 直 人	長崎
	工 藤 博 士	大分	福 田 裕 治	佐賀	狩 野 剛	佐賀

(敬称略)

250ト未満の部

森 隆則 様

1年間頑張った結果、1位という評価を頂き有難うございます。

これからも生乳生産に励んでまいります。



森 隆則 様

250ト以上500ト未満の部

大無田 美穂 様

新規就農から気がつくと早3年。思いがけない受賞で大変嬉しく思います。

牛が大好きで無知な私に、周りの人たちから助けられ、家族同然の牛達と一生懸命頑張ってきました。酪農は大変なこともありますが、やりがいのある産業だと思います。

これからも「健康な牛＝おいしいミルク」を第一に牛達と頑張っていきたいと思っています。



大無田 美穂 様

500ト以上の部

日高牧場株式会社 様

関係機関並びにJAの支援のお陰で畜産クラスター事業を活用した畜舎が完成し、生乳増産が出来ました。

今後とも、九州の酪農家の一人として頑張っていきたいと思っています。



日高牧場株式会社 様

生乳生産量の増産・維持に向けた取り組み、誠にありがとうございました。

酪農情勢報告

1. 九州の生乳出荷戸数

令和3年6月の生乳出荷戸数は1,214戸で、令和3年3月時点の1,227戸と比較すると13戸減少しています。

2. 九州の乳用種雌牛飼養頭数と出生頭数

23カ月令以下の頭数は前年を下回った推移が続いていますが、その減少幅は6月で若干縮小したように見受けられます。一方、24カ月令以上の頭数は前年を上回って推移しています。また、総頭数では前年を下回った推移となっています(表1)。

表1 乳用種雌牛飼養頭数 (単位:頭)

		4月	5月	6月
23カ月令以下		28,592	28,503	28,580
	増減	-2,011	-2,054	-1,572
	前年比	93.4%	93.3%	94.8%
24カ月令以上		75,758	75,357	74,995
	増減	67	172	37
	前年比	100.1%	100.2%	100.0%
総頭数		104,350	103,860	103,575
	増減	-1,944	-1,882	-1,535
	前年比	98.2%	98.2%	98.5%

注:Jミルクホームページより

3～5月の期間中において、出生総頭数は前年を上回り、その内訳として、乳用種雌および交雑種が前年を上回り、乳用種雄が前年を下回りました(表2)。

3. 生乳需給

(1) 生乳受託販売数量

4～6月の生乳受託販売数量は、前年を上回った推移となりました。

また、同期間中の都府県および北海道の生乳受託販売数量も前年を上回り、全国でも前年を上回りました(表3)。

表2 出生頭数

(単位:頭)

		3月	4月	5月
総頭数		3,544	2,961	2,300
	増減	-57	118	43
	前年比	98.4%	104.2%	101.9%
うち、乳用種雌		811	621	526
	増減	0	16	47
	前年比	100.0%	102.6%	109.8%
うち、乳用種雄		483	360	199
	増減	-51	8	-27
	前年比	90.4%	102.3%	88.1%
うち、交雑種		1,812	1,525	1,070
	増減	-9	42	-10
	前年比	99.5%	102.8%	99.1%

注:Jミルクホームページより

表3 生乳受託販売数量

(単位: t、%)

		4月	5月	6月
九州		53,546	54,121	49,821
	前年比	102.0%	100.5%	100.2%
都府県		272,074	279,716	260,682
	前年比	100.9%	101.1%	101.5%
北海道		337,728	355,702	347,185
	前年比	101.8%	102.1%	102.6%
全国		609,802	635,418	607,866
	前年比	101.4%	101.7%	102.1%

注:中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より

注:公共除く。ただし、都府県の内訳として中国のみ公共含む。

(2) 生乳販売状況

4～5月は、昨年から新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言の発出、休校・外出自粛等の対応が取られ、生乳販売への影響が大きく出ていたのに対し、今年は学乳供給が通常どおり、外出自粛も昨年ほど全国一律的な動きとはならなかったことで、飲用向けは前年を上回った一方、脱脂粉乳・バター等向けは前年を下回りました。また、6月は、昨年・今年ともに需給の変動が少なく、飲用向け、脱脂粉乳・バター等向けともにほぼ前年並みとなりました。

全国の生乳販売状況については、4～5月は九州と同様、飲用向けが前年を上回り、脱脂粉乳・バター等向けが前年を下回りましたが、6月は飲用向けが前年を上回り、脱脂粉乳・バター等向けが前年を上回る実績となっています(表4)。

(15ページへ続く)

表4 用途別販売数量

(単位: t、%)

	用途	4月	5月	6月
九州	飲用 (前年比) (前々年比)	35,219 107.6% 100.2%	38,512 100.3% 99.6%	38,019 100.6% 102.0%
	はつ酵乳 (前年比) (前々年比)	7,138 99.7% 95.8%	7,302 98.2% 93.7%	7,530 97.4% 95.6%
	脱脂粉乳・バター等 (前年比) (前々年比)	8,563 84.4% 110.9%	5,806 99.6% 128.6%	1,906 99.3% 96.2%
	生クリーム (前年比) (前々年比)	2,529 108.2% 93.8%	2,404 115.6% 95.6%	2,271 104.4% 101.1%
	チーズ (前年比) (前々年比)	97 104.8% 95.9%	96 107.2% 94.6%	95 100.4% 108.0%
全国	飲用 (前年比) (前々年比)	260,055 105.2% 100.8%	279,856 105.5% 99.3%	284,514 98.0% 99.7%
	はつ酵乳 (前年比) (前々年比)	39,120 96.5% 97.5%	40,398 93.5% 97.9%	40,073 97.2% 99.4%
	脱脂粉乳・バター等 (前年比) (前々年比)	168,072 91.9% 114.3%	169,853 98.3% 116.8%	141,602 111.5% 116.8%
	生クリーム (前年比) (前々年比)	104,445 110.6% 92.6%	108,460 105.7% 99.0%	105,666 102.5% 97.9%
	チーズ (前年比) (前々年比)	38,110 104.9% 114.9%	36,851 90.1% 102.6%	36,011 107.4% 105.6%

注: 中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より

4. 今後の生乳需給について

新型コロナウイルス感染症は、8月上旬の段階で九州及び全国各地で再び増加の兆候が見られており、ワクチン供給の遅れや感染力の強いデルタ株の広がりもあり、終息の出口は未だ見えていない状況です。

このような中、全国的な生乳需給は、繰り返される緊急事態宣言による業務用需要の落ち込みと巣籠り需要の落ち着きが合わさり、需要は新型コロナ禍前となる前々年と比較すると回復しきれておらず(表4)、結果として脱脂粉乳・バター等向けが増加しており、乳製品在庫は過剰といわれる水準にまで達しています。

今夏は平年と比較して梅雨明けが早く、7月中旬以降猛烈な暑さが連日続いています。生乳生産には厳しい環境となりますが、暑い夏は需要の増加が期待されます。本会としては、域内・域外の乳業者・全国連等と連携して適切な需給調整に取り組み、夏場を乗り切り、冬場の需要拡大に繋げられるよう取り組んでいきます。

加工原料乳生産者経営安定対策事業に係るお知らせ

1. 独立行政法人農畜産業振興機構より、令和2年度平均取引価格及び令和3年度補填基準価格等について通知がありましたのでお知らせします。

① 令和2年度平均取引価格	82.86円/kg
② 令和3年度補填基準価格	83.61円/kg

参考)

③ 令和2年度補填基準価格	83.80円/kg
④ 令和2年度補填金単価	0.75円/kg

* ④ = (③ - ①) × 8/10 (1銭未満四捨五入)

令和2年度においては、平均取引価格(①)が補填基準価格(③)を下回った為、本事業実施要綱第4の6の(8)の規定に基づき、交付対象者に対して補填金が交付されます。交付時期は、本年11月頃を予定しておりますが、正式なご案内は所属組合等を通じて別途ご連絡いたします。

2. 令和3年5月26日開催の令和3年度第2回理事会において決定した、今年度の生産者拠出金単価:加工原料乳1kgあたり0.20円については、独立行政法人農畜産業振興機構に申請し承認されましたので通知します。

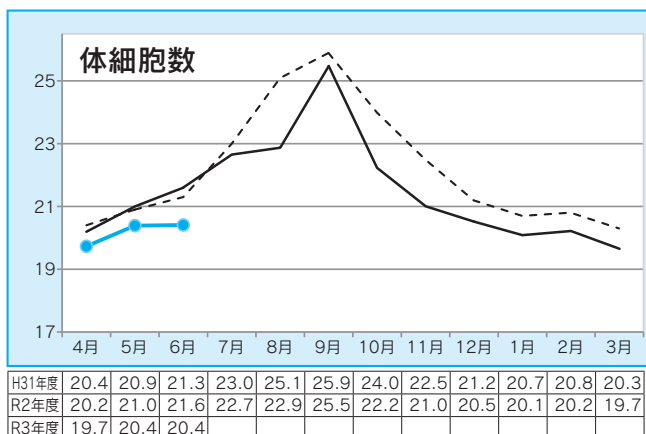
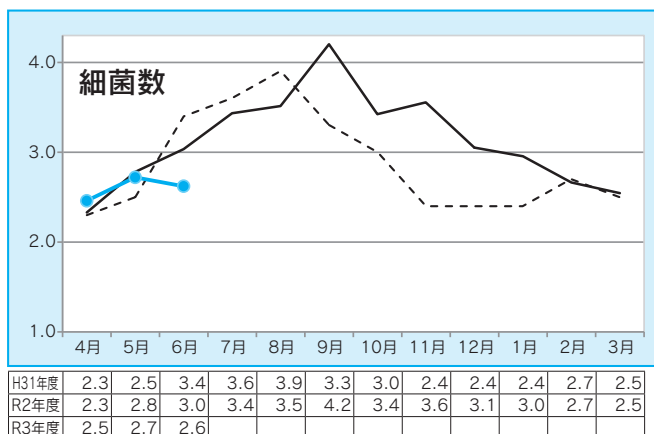
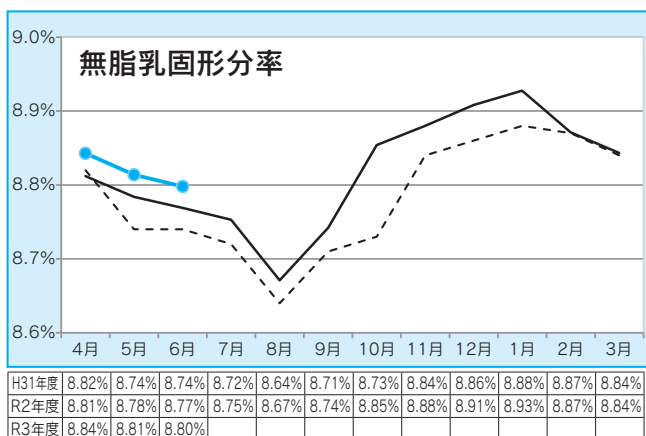
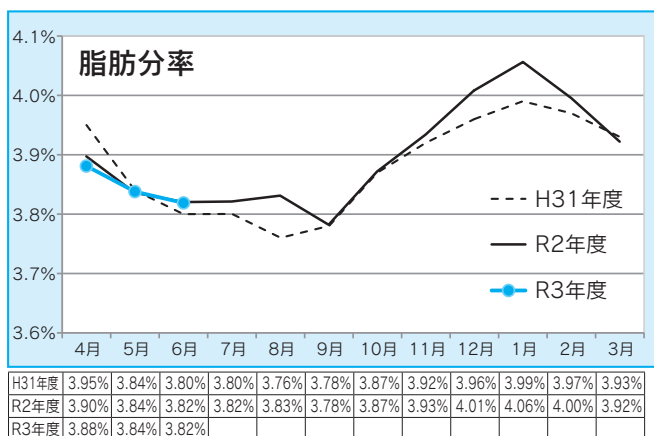
令和3年度生産者拠出金単価(加工原料乳1kgあたり)	0.20円/kg
----------------------------	----------

令和3年度会員別生乳受託販売数量

(単位: t、%)

	ふくおか県酪協		佐賀県農協		長崎県酪連		熊本県酪連		大分県酪協		宮崎県経済連		鹿児島県酪協		合 計	
	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比
4月	6,407	100.0	1,261	96.8	3,210	99.6	23,266	104.1	6,252	102.1	6,482	98.8	7,046	102.3	53,925	102.0
5月	6,550	100.5	1,290	97.6	3,261	99.3	23,586	102.6	6,352	101.0	6,571	98.1	6,906	96.8	54,516	100.5
6月	6,031	99.3	1,186	97.3	2,956	99.9	21,783	102.1	5,877	102.1	6,040	96.9	6,306	97.0	50,180	100.2
合 計	18,989	100.0	3,737	97.2	9,427	99.6	68,635	102.9	18,482	101.7	19,093	97.9	20,258	98.7	158,621	100.9

令和3年度 月別受託生乳検査成績



人事異動



川副 孝仁

〔 採用 〕
令和3年7月1日付
検査部 川副 孝仁

〔 退職 〕
令和3年5月31日付
検査部 笠 晋介

令和3年度販売状況について

用途別生乳販売実績

(単位 数量:t、前年比:%、単価:円/kg)

用 途		4月			5月			6月			第1四半期計		
		数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価
飲用等向け	域内飲用向け	23,430	96.5	114.675	25,469	96.6	115.250	25,517	100.7	115.530	74,416	97.9	115.163
	学校給食向け	3,102	415.2		3,857	286.3		4,744	106.3		11,702	178.5	
	域外飲用向け	8,975	112.2		9,488	86.3		8,076	97.0		26,539	97.2	
	飲用牛乳等向け計	35,507	107.5		38,814	100.3		38,337	100.6		112,658	102.6	
	はっ酵乳等向け	7,138	99.7		7,302	98.2		7,530	97.4		21,970	98.4	
	飲用等向け合計	42,645	106.1		46,116	99.9		45,867	100.0		134,628	101.9	
特定乳製品向け	脱脂粉乳・バター等向け	8,637	84.4	78.389	5,883	99.7	79.303	1,925	99.2	82.629	16,445	91.0	79.472
	クリーム等向け	2,546	108.1		2,421	115.3		2,293	104.5		7,260	109.2	
	チ ー ズ 向 け	97	104.8		96	107.2		95	100.4		288	104.1	
	特定乳製品向け計	11,280	88.9		8,400	103.8		4,313	102.0		23,993	96.0	
販 売 乳 量 合 計		53,925	102.0	107.085	54,516	100.5	109.711	50,180	100.2	112.702	158,621	100.9	109.764

支払乳代

(単位 金額:千円、単価:円/kg)

項 目	4月		5月		6月		第1四半期計	
	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価
基 本 乳 代 ①	5,774,539	107.085	5,981,030	109.711	5,655,412	112.702	17,410,981	109.764
脂 肪 分 加 算 金	43,426	0.805	40,043	0.735	33,272	0.663	116,741	0.736
無脂固形分加算金	54,711	1.015	54,646	1.002	46,112	0.919	155,470	0.980
成分加算金計 ②	98,137	1.820	94,689	1.737	79,385	1.582	272,210	1.716
季節別調整率 ③	94%	—	94%	—	100%	—	—	—
季 節 別 調 整 金	-346,472	-6.425	-358,862	-6.583	0	0.000	-705,334	-4.447
調整後乳代 ④=①×③	5,428,067	100.660	5,622,168	103.128	5,655,412	112.702	16,705,647	105.318
販 売 手 数 料	-17,618	-0.327	-18,227	-0.334	-17,204	-0.343	-53,050	-0.334
生 乳 検 査 料	-6,471	-0.120	-6,542	-0.120	-6,022	-0.120	-19,035	-0.120
送 乳 経 費	-212,646	-3.943	-219,376	-4.024	-206,511	-4.115	-638,532	-4.026
需要者負担額(運賃補填)	2,332	0.043	2,490	0.046	3,859	0.077	8,680	0.055
C S ・ 冷 却 費	-53,864	-0.999	-52,747	-0.968	-53,642	-1.069	-160,254	-1.010
集 乳 経 費	-123,989	-2.299	-125,671	-2.305	-115,478	-2.301	-365,138	-2.302
プ ー ル 費 用 ⑤	-412,256	-7.645	-420,073	-7.705	-394,998	-7.872	-1,227,328	-7.737
差引乳価 ②+④+⑤	5,113,948	94.835	5,296,783	97.160	5,339,798	106.412	15,750,530	99.296

「生乳流通体制の合理化の総合的な推進について」の一部改正について

令和3年2月9日付の農林水産省生産局長通知により一部改正となりました。これを受け次の内容について検討を行い、12月に農林水産省へ計画書を提出します。

1 指定団体のあるべき姿の検討

- ① 望ましい指定団体の姿とその実現に向けた工程
- ② ①における指定団体の会員である農業協同組合連合会及びその会員である農業協同組合等の機能と在り方
- ③ 指定団体及び会員等の手数料の在り方
- ④ 必要な情報収集及び生産者への情報開示の具体的な方法
- ⑤ その他必要な事項
 - 中央酪農会議は生産者数の減少、大規模農場の増加や広域で流通する生乳量の増加を踏まえた望ましい指定団体の姿を検討の上、再編計画を策定し農林水産省に報告する。
 - 組織体制の整備に当たっては、現状等を踏まえ、生産者団体としての機能を効率的かつ効果的に発揮できる体制となるよう、組織内で十分協議したうえで推進すること。

2 生乳取引体制の合理化の推進

- ① 生乳受託販売業務の指定団体への一元化と会員等との業務・役割分担の見直しを含む組織体制
- ② ①を踏まえた手数料の見直し
- ③ 集送乳経費、手数料等の控除経費に係る情報開示の徹底
- ④ 集送乳や手数料等の合理化の数値目標と具体的な方策
- ⑤ 集送乳業者との価格交渉
- ⑥ その他必要な事項
 - 指定団体は会員と連携し、生乳受託販売業務の合理化に係る「業務推進計画」を策定し、中央酪農会議を経由して農林水産省に報告する。
 - 生乳受託販売業務の一元化に当たっては、生産者と生乳受託販売契約の直接契約に当たって必要となる規程や組織間の役割分担の整備を行うこと。

酪農教育ファーム認証牧場・ファシリテーター新規募集中！

酪農教育ファームとは、全国の酪農家および関係者が牧場や学校などで主に教育関係者と連携しながら行う酪農理解醸成活動です。

令和3年度は、九州地域で33戸の認証牧場と59名のファシリテーターが、子ども達に「いのちの学びを支援する」ことを目的に酪農体験活動等を行っております。（現在、新型コロナ禍のため活動自粛中）

募集についての詳細は所属組合または県連へお問い合わせください。



今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、対面型のイベント等の実施が難しい状況が続いています。こうした中で、酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業として6月の牛乳月間にSNSを利用したキャンペーンを実施しました。

#牛乳ヒゲチャレンジ 第2弾を実施しました！

昨年度の牛乳月間に実施したキャンペーン「#牛乳ヒゲチャレンジ」が好評だったことを受けて、今年も同様のキャンペーンを第2弾として実施しました。牛乳を飲んでできた牛乳ヒゲの写真を撮り「#牛乳ヒゲチャレンジ」のハッシュタグをつけてInstagramに投稿した方の中から抽選で30名にLL牛乳1ケース（200ml×24本）をプレゼントするという内容でした。

キャンペーン期間中は個性豊かな牛乳ヒゲ姿の写真が700件以上投稿され、キャンペーンを楽しみながら牛乳をおいしく飲んでいる様子が見られます。

また、キャンペーンの参加者は、今回から初参加の方、前回から続けて参加された方それぞれいらっしゃる事から、このキャンペーンが徐々に生活者に広がりつつあることを実感しました。

○#牛乳ヒゲチャレンジ 第2弾の投稿写真



新型コロナウイルスを巡る情勢は、繰り返される感染拡大と減少、変異株の発生やワクチン接種の状況等により日を追うごとに変わっていきませんが、これらを踏まえた上で今後も酪農理解醸成と牛乳消費拡大のための様々な施策を展開してまいります。

今回のキャンペーンの内容、投稿写真については本会Instagramアカウントやハッシュタグ等から閲覧することが出来ますので、こちらもぜひご覧ください。

【九州Love Milk Club Instagramアカウント】

<https://www.instagram.com/kyusyulovemilkclub/>

＼ 九販連公式ホームページ・SNS・YouTube公式チャンネルはこちら！ ／

ホームページ	https://kyuhanren.com
Facebook	https://www.facebook.com/kyuhanren
Instagram	https://www.instagram.com/kyusyulovemilkclub/
YouTubeチャンネル	https://www.youtube.com/channel/UC7mW1zTUh1ZpvyvEXZkZWzQ



牛乳・バター利用拡大推進運動について

九州産生乳の安定的な需要維持・拡大に繋げることを目的として、九州統一のデザインを利用したLL牛乳・バターの利用拡大推進運動を今年度も実施することといたしました。令和3年5月の生乳出荷戸数に1戸当たりの目標数量(LL牛乳(24本/ケース)5ケース、バター(30個/ケース)1ケース)を乗じて総目標数量としました。皆様の積極的な運動へのご協力をお願いいたします。

会員別目標数量

会員名	出荷戸数(戸)	LL牛乳(本)	バター(個)	
			200gの場合	225gの場合
ふくおか県酪協	181	21,720	5,430	4,827
佐賀県農協	37	4,440	1,110	987
長崎県酪連	112	13,440	3,360	2,987
熊本県酪連	452	54,240	13,560	12,053
大分県酪協	83	9,960	2,490	2,213
宮崎県経済連	210	25,200	6,300	5,600
鹿児島県酪協	141	16,920	4,230	3,760
合計	1,216	145,920	36,480	32,427



【熊本県酪連】



【九州乳業株式会社】



【南日本酪農株式会社】

- ・商品名:九州生まれの牛乳。
- ・種類別:牛乳(常温保存可能品)
- ・原材料名:生乳100%
- ・内容量:200ml
- ・殺菌:【熊本県酪連・九州乳業株式会社】140℃ 3秒間
【南日本酪農株式会社】140℃ 2秒間
- ・1ケース入り数:24本
- ・保存方法:常温を超えない温度で保存
- ・賞味期限:90日間



【株式会社乳舎】



【九州乳業株式会社】



【南日本酪農株式会社】

- ・商品名:九州生まれのバター
- ・種類別:バター
- ・原材料名:生乳・食塩
- ・内容量:【株式会社乳舎・南日本酪農株式会社】200g
【九州乳業株式会社】225g
- ・中箱入り数:【株式会社乳舎・南日本酪農株式会社】200g×6個
【九州乳業株式会社】225g×6個
- ・1ケース入り数:中箱×5個
- ・保存方法:【株式会社乳舎】-18℃以下で冷凍保存
【九州乳業株式会社・南日本酪農株式会社】10℃以下で冷蔵保存
- ・賞味期限:【株式会社乳舎】冷凍で3年
【九州乳業株式会社・南日本酪農株式会社】冷蔵で6カ月